昭和61・62年度

高知県遺跡詳細分布調査概報

—幡多ブロック—

昭和63年３月

高知県教育委員会

昭和61・62年度

高知県遺跡詳細分布調査概報

—幡多ブロック—

昭和63年３月

高知県教育委員会

序

埋蔵文化財（遺跡）は、土地に刻まれた祖先の生活・文化の足跡であり、地域の歴史・文化を解明するための貴重な歴史資料であります。また、わが国の歴史文化を正しく理解するために欠くことのできない文化遺産でもあります。これを保護し、後世へ伝えることは現代に生きる我々の責務であろうと思います。そして、その保護が近年の地域開発の進展に伴なって、極めて重要な課題となっています。

高知県教育委員会では、こうした現状から、県下における埋蔵文化財について、その保護の周知徹底をはかり、かつ遺跡を保護するための基礎資料とすることを目的として、昭和61年度から10ヵ年計画で県下全域の詳細な遺跡分布調査を計画し、実施中であります。

この概報は、国庫補助事業として昭和61・62年度に現地踏査し、新たに確認した 310数カ所を加え、総数 670カ所余の幡多地域の遺跡の分布調査概報であります。

今後、文化財保護の資料として役立ち、各地域での分布調査等の参考になれば幸いです。

最後に寒暑にかかわらず現地踏査等に御協力頂いた各市町村教育委員会、及び各市町村文化財保護審議会委員等の方々に感謝申し上げるとともに、今後もさらに調査を継続してまいりますので、宜しく御協力いただきますようお願いいたします。

昭和63年３月

高知県教育委員会

教育長　中澤秀夫

例　　言

1. 本書は、高知県教育委員会が昭和61・62年度に国庫補助事業として、実施した幡多郡７町村の遺跡分布調査及び、中村市・宿毛市・土佐清水市が昭和62年度に国庫補助事業として、それぞれ実施した遺跡分布調査の概要報告である。
2. 調査地区は、下記の３市４町３村である。
   中村市・宿毛市・土佐清水市・佐賀町・大正町・大方町・大月町・十和村・西土佐村・三原村
3. 調査関係者は別表の通りである。
4. 本書に記載されたものは、その所在が確認された埋蔵文化財包蔵地(遺跡)であり、原始から中世（一部近世）までのものである。ただし、伝承地など未確認のものについては除いたものもある。
5. 地図は、国土地理院発行の国土基本図（１/5,000）及び森林基本図（１/5,000）を使用して行ない、すべて遺跡の所在は、その範囲を赤で記した。また、周知の遺跡については青で示した。なお、『高知県遺跡地図―幡多ブロック―』では、すべて遺跡の範囲を赤で示し、消滅したものは波線で表示した。
6. 本書は、昭和63年２月１日現在までに掌握した幡多地域の遺跡をまとめたものである。
7. 本書は、同時刊行の『高知県遺跡地図―幡多ブロック―』((承認番号)昭和63四複第８号)成果について図表を中心に説明したものであり、また、今回の調査の成果事例として、同地図、図19の一部、幡多郡大方町早咲周辺をとりあげて、遺跡一覧表、遺跡地図を掲載した。
8. 本書の編纂は、高知県教育委員会文化振興課埋蔵文化財班が当った。

別　表　　昭和61・62年度高知県遺跡詳細分布調査関係者一覧

1．市部調査協力者及び文化財保護審議会委員

(1)中　村　市　木村剛朗、西山晴視

(2)宿　毛　市　橋田庫欣、松尾静夫、杉本公男、高見繁数、増田全英、北小路明、酒井　明

(3)土佐清水市　山下竹光、黒原和男、上野年実

2．高知県遺跡分布調査委嘱調査補助員

(1)佐　賀　町　野坂晴男

(2)大　正　町　芝　貞義

(3)大　方　町　小橋従道

(4)大　月　町　武田　孝

(5)十　和　村　吉良和生

(6)西土佐村　門田英哉（昭和61年度）　石川　一（昭和62年度）

(7)三　原　村　矢野恒吾

3．各教育委員会関係者

(1)高知県教育委員会文化振興課

課　　長　嶋崎和男（昭和61年度）　渡辺一雄（昭和61・62年度）

課長補佐　永野　毅

埋蔵文化財班長　楠瀬陽介

社会教育主事　高橋啓明

主　　幹　下村公彦

〃　　山本哲也（宿毛市担当）

主　　事　森田尚宏

〃　　出原恵三

〃　　廣田佳久（総括、中村市、町村担当）

〃　　松田直則

〃　　吉原達生（土佐清水市担当）

(2)中村市教育委員会社会教育課

課　　長　中野　修

係　　長　杉本整史

社会教育指導員　東　卓志

整理作業員　宮崎司朗　宮崎美和

(3)宿毛市教育委員会社会教育課

課　　長　田村耕作

課長補佐　岩田矩彦

派遣社会教育主事　中川洋介

整理作業員　滝本祐二

(4)土佐清水市教育委員会社会教育課

課　　長　竹内　巧

課長補佐　池　英大

係　　長　網野　進

整理作業員　岡田　修

(5)佐賀町教育委員会

教育次長　苗木寛司

(6)大正町教育委員会

公民館長　中森　巌（昭和61年度）

主　　事　本山桂三（昭和62年度）

(7)大方町教育委員会

主　　事　畦地和也

(8)大月町教育委員会

社会教育係長　安岡豊治

(9)十和村教育委員会

社会教育主事　高瀬満伸

(10)西土佐村教育委員会

社会教育係長　横山茂男（昭和61年度）　遠地ただひこ（昭和62年度）

公民館主事　中平晋祐（昭和61年度）　芝　正司（昭和62年度）

派遣社会教育主事　中川洋介（昭和61年度）

(11)三原村教育委員会

社会教育主事　森本光廣

本 文 目 次

第Ⅰ章　調査に至る経緯…… 1
第Ⅱ章　調査対象地域…… 3
第Ⅲ章　調査の方法・内容…… 4
第Ⅳ章　調査の成果…… 7

挿 図 目 次

第１図　高知県遺跡詳細分布調査対象地域図…… 2
第２図　昭和61・62年度高知県遺跡詳細分布調査対象地域図…… 3
第３図　埋蔵文化財包蔵地調査カード記入例…… 6
第４図　幡多ブロック市町村遺跡数比率……10
第５図　新発見遺跡数比率……12
第６図　遺跡数変化図……12
第７図　幡多ブロック遺跡種別内訳……13
第８図　市町村別新発見遺跡種別数……13
第９図　市町村・時代別遺跡数……14
第10図　遺跡の種類別新発見遺跡比率……15
第11図　大方町早咲周辺遺跡地図……17

表 目 次

第１表　高知県遺跡詳細分布調査実施計画…… 2
第２表　幡多ブロック市町村面積…… 3
第３表　幡多ブロック遺跡分布調査実施日数…… 5
第４表　高知県遺跡詳細分布調査内容…… 5
第５表　遺跡数一覧表…… 8
第６表　時代別遺跡数一覧表…… 9
第７表　大方町早咲周辺遺跡一覧表……16

第Ⅰ章　調査に至る経緯

高知県教育委員会では、昭和48年度に文化庁の全国調査の一環として県下の遺跡分布調査を実施した。この成果は文化庁より『全国遺跡地図・高知県』（昭和51年）として刊行され、高知県の遺跡の分布を示す基礎資料となっている。

さらに、昭和58年度には国庫補助を受け県内の中世城館についての分布調査を実施し、『高知県中世城館分布調査報告書』を刊行した。

また、昭和54年度からは、高知空港拡張整備事業に伴う田村遺跡群の発掘調査が開始され、それに伴い他の発掘調査も年々その数が増加している。

このようにして収集した埋蔵文化財に関しては、前述の遺跡分布地図のほか県教育委員会及び市町村教育委員会には遺跡台帳など備えている。

しかし、現状では、遺跡台帳の不備や未確認・未登録の遺跡遺物も多く、工事等によって新しく埋蔵文化財包蔵地が発見されるケースも少なくない。

また、遺跡台帳や遺跡地図に記載されていても、遺跡の範囲や出土品の所在等が不明な点も指摘される。

このため、詳細な遺跡の分布状況等を把握し、かつ、地域住民や開発事業者に周知の徹底を図り、遺跡の保護について正しい理解と協力を得なければならないと考え、昭和61年度より県下を５ブロックに分け、各ブロック２カ年をかけ、合計10カ年計画で県内の遺跡分布調査を実施することになった。昭和61・62年度は幡多ブロックを対象として詳細な分布調査を実施した。また、市部については、県教育委員会の指導のもと昭和62年度独自で国庫補助事業として所轄の詳細な分布調査を実施していただいた。

これらの成果は、同時刊行の『高知県遺跡地図―幡多ブロック―』としてまとめてある。他のブロックについても順次実施する予定である。

第１図　高知県遺跡詳細分布調査対象地域図

調査年度	昭和61・62年度		昭和63・64年度		昭和65・66年度		昭和67・68年度		昭和69・70年度	
区　域	幡多ブロック		香美・長岡ブロック		土佐・吾川ブロック		高岡ブロック		安芸ブロック	
該当市町村（番号は市町村番号）	07	中村市	04	南国市	01	高知市	05	土佐市	02	室戸市
	08	宿毛市	17	赤岡町	27	鏡村	06	須崎市	03	安芸市
	09	土佐清水市	18	香我美町	28	土佐山村	37	中土佐町	10	東洋町
	47	佐賀町	19	土佐山田町	29	土佐町	38	佐川町	11	奈半利町
	48	大正町	20	野市町	30	大川村	39	越知町	12	田野町
	49	大方町	21	夜須町	31	本川村	40	窪川町	13	安田町
	50	大月町	22	香北町	32	伊野町	41	大野見村	14	北川村
	51	十和村	23	吉川村	33	池川町	42	梼原町	15	馬路村
	52	西土佐村	24	物部村	34	春野町	43	東津野村	16	芸西村
	53	三原村	25	本山町	35	吾川村	44	葉山村		
			26	大豊町	36	吾北村	45	仁淀村		
							46	日高村		

第１表　高知県遺跡詳細分布調査実施計画

第II章　調査対象地域

高知県下を調査対象地域とし、県下を５ブロックに分け、各ブロック２カ年ずつ計10カ年計画で実施する予定であるが、市部については、県教育委員会の指導協力のもと市主体で実施し、各ブロックごとに『高知県遺跡地図』として県教育委員会がとりまとめ刊行する。

調査初年度である昭和61年度と昭和62年度は主に幡多地域を調査することにした。行政単位では、中村市、宿毛市、土佐清水市、佐賀町、大正町、大方町、大月町、十和村、西土佐村、三原村の３市４町３村である。ただし、遺跡の関連性から隣接する市町村も必要に応じて踏査を行う。

この幡多地域は、高知県の西南部に位置し、県下でも有数の遺跡数を誇る中村市、宿毛市を取り囲む地域であり、面積的には、香川県の総面積にも匹敵する。調査前の埋蔵文化財についてみてみると、３市４町３村の合計数は、県総数 1,360遺跡の26.6%（昭和61年３月現在）で、その内、中村市、宿毛市が幡多地域の65.4%を占めていた。

市町村名	総面積(km²)	耕地面積(ha)	耕地面積比
中村市	387.87	1,693	29%
宿毛市	284.91	1,166	20%
土佐清水市	266.63	600	10%
市部小計	939.41	3,459	(59%)
佐賀町	76.09	187	3%
大正町	199.51	210	4%
大方町	112.87	592	10%
大月町	104.30	462	8%
十和村	163.60	247	4%
西土佐村	247.90	321	6%
三原村	84.47	303	6%
町村小計	988.74	2,322	(41%)
合計	1,928.15	5,781	100%

第２表　幡多ブロック市町村面積

第２図　昭和61・62年度高知県遺跡詳細分布調査対象地域図

また、この地域は、中村・宿毛バイパス、宿毛線、西南空港、西南国営農地などの大規模な開発や各種圃場整備事業、住宅地造成をはじめとした開発事業が予想され、そのような開発事業に対して迅速、適切な文化財保護行政を推進するには遺跡地図、遺跡台帳の完備、充実は不可欠である。

以上のことから、昭和61・62年度の調査対象地域として幡多郡を選定した。

第Ⅲ章　調査の方法・内容

町村については、県教育委員会が主体となり、県教育委員会の埋蔵文化財担当者が関係町村教育委員会文化財担当者及び町村文化財保護審議会委員等の協力を得て実施するとともに、各町村ごと１名の調査補助員を委嘱して実施した。

また、市部については、昭和62年度に各市教育委員会が主体となり、調査協力者及び市文化財保護審議会委員等の協力を得て、県教育委員会の埋蔵文化財担当者の指導・協力のもとに実施した。

調査は、第１～３次調査に分けて行い、第１次調査を昭和61年６月から９月まで、第２次調査を昭和61年10月から昭和62年11月まで、第３次調査を昭和62年12月から昭和63年３月にかけて実施した。市部については、昭和62年度の実施であったが、調査面積が広く単年度で完了することが困難とみられたため、昭和61年度に第１次調査を県の指導・協力のもと実施した。また、この間説明会並びに打合せ会を昭和61年５月21日に、昭和61年度の報告会並びに昭和62年度の打合せ会を昭和62年４月20・21日に、そして、昭和61・62年度の調査報告会を昭和63年２月25日にそれぞれ中村市で開催した。

調査内容は、事前に高知県遺跡詳細分布調査実施要項並びに要領を作成し、調査方法・内容の統一をはかった。第４表が調査内容の概略であり、各調査の内、次の点に特に留意して実施した。

第１次調査においては、特に第１項と第３項に重点をおいて調査した。第１項については、遺跡の発見届は勿論、遺跡台帳、遺跡地図等に全く掲載されていないにもかかわらず、地元の一部で遺跡として知られているものが多くみうけられたためである。第３項は、今回の調査が中世（一部近世）までの遺跡を対象としたためである。特に、中世城跡についてはかなり高い確率で発見することができた。

第２次調査においては、遺跡の写真撮影の際のフィルムカードへの記入を習慣付け、遺跡を新たに発見した場合は、できるだけその場で地元の人に所在地を聞くよう努めた。また、今回の調査が過去の調査と大きく異なる点は、各市町村ごとに5,000分の１の地形図に遺跡の範囲を記入したことと、遺跡台帳にも遺跡の範囲を赤で記入した 5,000分の１の地形図（国土基本図又は森林基本図）を貼付したことである。旧台帳では、遺跡の範囲が略図であり、その位置や範囲を明確にできなかったためである。

第３次調査においては、遺跡番号の統一をはかった。従来の遺跡番号は、１つの遺跡で数種類の番号があったり、不明確であったため、今回から市町村ごと６桁の算用数字を使用することとした。上２桁が県下53市町村の市町村番号で、下４桁が市町村ごとに付した一連番号であり、各市町村とも１～9,999まで使用可能である。なお、一連番号については、周知の遺跡から順に付した。　（例）49 0031

→市町村遺跡番号（奥尾遺跡）

→高知県市町村番号（大方町）

第３図は、埋蔵文化財調査カードの記入例であり、原寸の５分の３の大きさとなっている。幡多ブロック10市町村全部県教育委員会が記入作成した。旧台帳と異なる点は、遺跡番号の統一と遺跡の範囲を略図ではなく 5,000分の１の地形図を使用したこと及び写真を白黒写真からカラー写真に変えたことである。

市町村名 / 実施日数	中村市	宿毛市	土佐清水市	佐賀町	大正町	大方町	大月町	十和村	西土佐村	三原村
第１次調査	10	9	7	16	12	15	8	10	17	7
第２次調査	40	38	29	11	11	19	19	17	15	17
合　計	50	47	36	27	23	34	27	27	32	24

第３表　幡多ブロック遺跡分布調査実施日数

年　度	調査名	目　的	調査項目
初年度前半	１次調査	旧遺跡地図及び文献資料等の確認、踏査地域の選定	(1) 旧遺跡地図、遺跡台帳、市町村史などを手掛りとして地形図(原則として1/5,000)に周知の遺跡を正確に記入 (2) 聞きとり調査 (3) 地名（字名、ホノキ等）による調査 (4) 古絵図、古文書等による調査 (5) 関係町村に保管されている遺物から出土地点確認 (6) (1)～(5)等に基づき、踏査地域の選定
初年度後半及び次年度	２次調査	１次調査に基づく現地踏査	(1) 遺物の表採とチェック (2) 地形図（1/5,000）に記入 (3) 埋蔵文化財包蔵地調査カードに記入 (4) 現状の写真撮影 (5) 略測
次年度	３次調査	遺跡分布地図の作成	(1) 埋蔵文化財包蔵地調査カードの清書 (2) 表採遺物の整理 (3) 遺跡地図清書 (4) 地形図(1/25,000)への遺跡転写 (5) 各種資料作成 (6) 遺跡地図の作成

第４表　高知県遺跡詳細分布調査内容

埋蔵文化財包蔵地調査カード

No. 490031

高知県 大方 市・(郡)・村

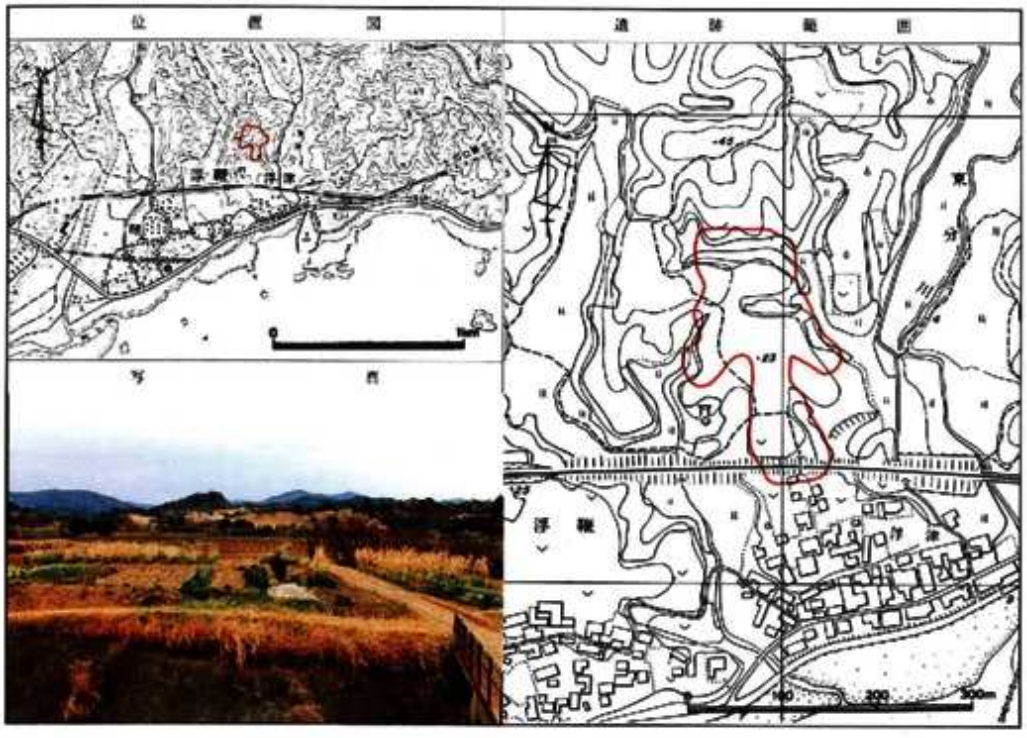
No.		No.			
種別	散布地	名称	奥尾遺跡	時代	奈良～室町 時代
所在地	幡多 市・(郡) 大方(郡)・村 浮鞭字田中谷、西奥尾、前奥尾			指定	年 月 日
土地所有者	国・公（ ）(民)（田辺正三 他2名）	現状	畑	地図	土佐佐賀 分類 1・(2)・3

遺跡の概要	立地	丘陵上
	範囲	東西約 180m 南北約 200m
	形態	複合遺跡で集落跡の可能性あり。
	時代	詳細不明
	遺構	不明。（畑に開墾されているが旧地形が残っていることから遺構の残存状況は良好とみられる）
	特徴	鞭遺跡の東側の遺跡で性格的にはほぼ同じとみられる。
	その他	西側の谷には龍ヶ城遺跡が存在する。
	調査	発掘・試掘 調査員 調査年月日

出土品の概要	土師器（甕片） 9
	須恵器（・） 11
	備前（擂鉢片） 2
	青磁（碗片） 1
	近世陶磁器片 5
所蔵・保管場所	大方町教育委員会

文献					
調査年月日	1987年2月2日	調査員	廣田佳久	備考	

高知県教育委員会



第3図　埋蔵文化財包蔵地調査カード記入例

第Ⅳ章　調　査　の　成　果

調査結果である遺跡の種類、遺跡数の変化については、第５表で示した通りである。周知の遺跡が 362遺跡であったのに対し、今回新たに確認した遺跡は 315遺跡を数え、約87％の増加率であった。特に、町村のみを取り上げてみるなら、約 187％の増加率となる。最も増加率が高かったのは大方町であり、約 4.7倍になっており、以下佐賀町、大月町、三原村の順に続く。一方、最も増加率の低かったのは宿毛市で、約28.1％の増加率である。各市町村とも60％以上の増加率であるのに対し、宿毛市だけがそれ以下であった。

第６表は、遺跡の時代別一覧表であり、１時代１遺跡として計算したものである。例えば、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡の場合、遺跡としては１遺跡であるが、時代としては、５つの時代が含まれており、便宜上５遺跡として数えた。全体的にみて、中世の遺跡が最も多く約56％を占める。実際は、近世の占める割合が最も多くなると考えられるが、今回は、近世の一部のみを対象としたため、その割合は低くなっている。また、旧石器時代の遺跡は全く発見されていない。

以下、第５・６表をもとに調査成果をみてみる。

第４図は、幡多ブロック10市町村における各市町村の遺跡数の占める割合を示したものである。遺跡数の占める割合が、大方町では約３倍、大月町では約２倍にそれぞれ増加し、一方では、宿毛市が約30％の減少となっている。調査前には、中村市、宿毛市、土佐清水市の３市で全体の約¾を占めていた遺跡数が、約⅔に減少している。

第６図は、各市町村の遺跡数変化図であり、周知遺跡数と新発見遺跡数を示している。調査対象地域における周知遺跡数と新発見遺跡数の相対的な数的関係を知ることができる。遺跡総数では圧倒的に中村市が多く、宿毛市、土佐清水市、大方町の順に続く。これを数的処理を行ったのが第５図であり、各市町村の新発見遺跡の占める割合を読みとることができる。

第７図は、幡多地域全体での遺跡の各種別の割合を示したものである。調査前は、中世の城跡が全体の56％を占めており第１位であったのが、調査後は39％に下がっている。今後は、さらにその割合が下がるものとみられる。古墳についてみてみるならば、全国的には遺跡の種別中最も高い割合を占める種別の１つに数えられるが、全体の１％と最も少ない種別の１つになっている。他の地域に比べ絶対数が少ないことも大きな理由の１つと考えられるが、この地域は、全般に耕地面積が狭く、古墳の立地する丘陵等まで開墾され、現状として表面観察だけでは、確認し得ないこともその理由の１つとみられる。今回確認した唯一の古墳である宿毛市の神ヶ谷古墳（080107）は、墳丘が全く残っておらず、その一部が林道によって削られたことにより遺物が露出しており発見されたものである。

第８図は、市町村ごとに新発見遺跡の種別を図化したものである。各市町村とも散布地の占める割合が高くなっている。この散布地の中には、今後集落跡として確認されるものも多数含まれているとみられる。次に多いのが中世の城跡である。１時代の遺跡として、遺跡数の多い

のは、小字等でその所在がある程度推定でき、かつ比較的地表面観察だけで確認しやすいためとみられる。

第9図は、第6表を棒グラフに表わしたものであり、各時代の占める割合を各市町村ごとに知ることができる。各市町村とも中世の遺跡の占める割合が最も高くなっている。また、大方

種別 / 市町村	散布地			集落跡			貝塚			城跡			社寺跡			古墳		
中村市	40	67	107	1	2	3	1	0	1	69	11	80	1	0	1	3	0	3
宿毛市	17	22	39	0	0	0	1	0	1	67	2	69	0	1	1	3	1	4
土佐清水市	16	30	46	3	0	3	0	0	0	15	5	20	1	2	3	0	0	0
市部小計	73	119	192	4	2	6	2	0	2	151	18	169	2	3	5	6	1	7
佐賀町	1	5	6	0	0	0	0	0	0	3	3	6	0	4	4	0	0	0
大正町	2	7	9	0	0	0	0	0	0	7	0	7	0	1	1	0	0	0
大方町	6	44	50	0	0	0	0	0	0	6	20	26	0	4	4	1	0	1
大月町	1	7	8	1	0	1	0	0	0	8	11	19	0	1	1	0	0	0
十和村	7	9	16	1	0	1	0	0	0	13	4	17	0	0	0	0	0	0
西土佐村	9	15	24	0	0	0	0	0	0	11	1	12	0	1	1	0	0	0
三原村	3	5	8	0	0	0	0	0	0	4	4	8	0	5	5	0	0	0
町村小計	29	92	121	2	0	2	0	0	0	52	43	95	0	16	16	1	0	1
合計	102	211	313	6	2	8	2	0	2	203	61	264	2	19	21	7	1	8

種別 / 市町村	窯跡			墓			狼煙場跡			砲台跡			その他			合計			新発見遺跡数(%)/周知の遺跡数
中村市	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	8	0	8	128	80	208	62.5
宿毛市	0	0	0	7	1	8	0	0	0	0	0	0	1	0	1	96	27	123	28.1
土佐清水市	0	0	0	4	0	4	5	2	7	3	1	4	1	0	1	48	40	88	83.3
市部小計	0	0	0	16	1	17	5	2	7	3	1	4	10	0	10	272	147	419	54.0
佐賀町	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4	13	17	32.5
大正町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	8	17	88.9
大方町	1	1	2	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	15	70	85	466.7
大月町	0	0	0	0	3	3	0	6	6	0	3	3	1	0	1	11	31	42	281.8
十和村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	13	34	61.9
西土佐村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	17	37	85.0
三原村	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	2	10	16	26	160.0
町村小計	1	1	2	4	3	7	0	8	8	0	3	3	1	2	3	90	168	258	186.7
合計	1	1	2	20	4	24	5	10	15	3	4	7	11	2	13	362	315	677	87.0

（三枠内数値について、左枠：周知の遺跡数、中枠：新発見遺跡数、右枠：合計遺跡数）

第5表　遺跡数一覧表

町のように、時代が新しくなるに従って、遺跡数も増加するのが一般的と考えられるが、中村市、宿毛市、土佐清水市などでは、ばらつきがみられる。一方、大正町、十和村、西土佐村の北幡地区及び佐賀町、三原村では、弥生時代から平安時代にかけての遺跡が全く発見されておらず、特異な様相を呈す。大月町も、弥生時代の遺跡が1カ所確認されている以外は、縄文時代と中世以降の遺跡であり、類似している。

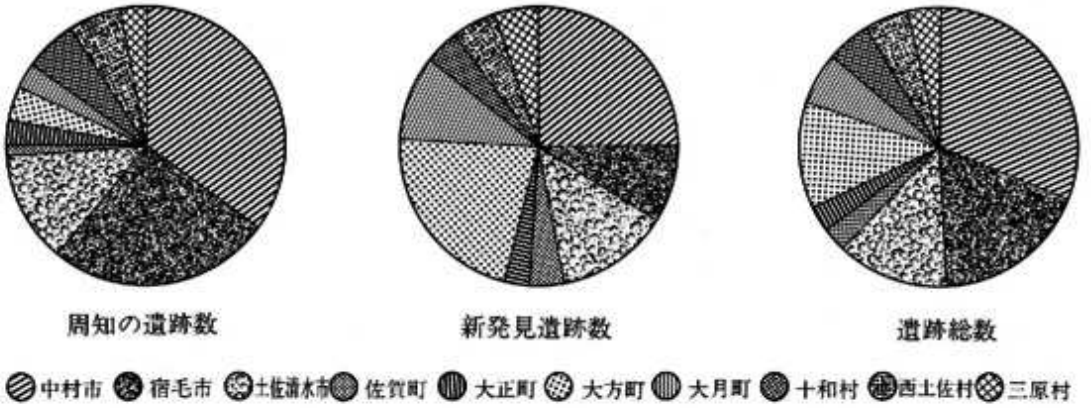
第10図は、遺跡の種別ごとに周知遺跡数と新発見遺跡数の比率を図化したものである。散布地、社寺跡、狼煙場跡、砲台跡など周知遺跡を上回る成果があったことがわかる。貝塚につい

時代 / 市町村	旧石器			縄文			弥生			古墳			奈良			平安		
中村市	0	0	0	18	12	30	22	7	29	14	3	17	4	6	10	5	12	17
宿毛市	0	0	0	11	3	14	5	3	8	8	2	10	2	2	4	2	3	5
土佐清水市	0	0	0	17	7	24	6	0	6	0	0	0	0	0	0	1	7	8
佐賀町	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大正町	0	0	0	2	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大方町	0	0	0	2	12	14	5	3	8	6	9	15	4	20	24	5	22	27
大月町	0	0	0	2	2	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
十和村	0	0	0	8	8	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西土佐村	0	0	0	9	7	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三原村	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	71	56	127	39	13	52	28	14	42	10	28	38	13	44	57

時代 / 市町村	中世			近世			複合			合計		
中村市	84	74	158	6	0	6	14	22	36	153	114	267
宿毛市	74	22	96	3	1	4	4	5	9	105	36	141
土佐清水市	29	21	50	9	21	30	4	22	26	62	56	118
佐賀町	3	12	15	0	5	5	0	4	4	3	18	21
大正町	8	4	12	0	1	1	1	1	2	10	9	19
大方町	9	60	69	0	4	4	6	29	35	31	130	161
大月町	8	20	28	1	10	11	1	1	2	12	32	44
十和村	16	8	24	0	0	0	2	3	5	24	16	40
西土佐村	14	12	26	0	1	1	3	3	6	23	20	43
三原村	7	17	24	2	5	7	2	5	7	11	22	33
合計	252	250	502	21	48	69	37	95	132	434	453	887

（三枠内数値について、
右枠：周知の遺跡数
中枠：新発見遺跡数
左枠：合計遺跡数）

第6表　時代別遺跡数一覧表



第4図　幡多ブロック市町村遺跡数比率

ては、今回の調査では新発見遺跡が皆無であったことを意味している。

次に、以上の結果をもとに各市町村の様相等について考えてみたい。

中村市は、幡多地域全体の20%の面積と約29%の耕地面積を有し、遺跡数でも全体の約31%を占めている。立地的にみても、高知県最大の四万十川や後川・中筋川の各河川が流れ込む地帯であり、この遺跡数は当然といえるであろう。ただし、全般に堆積が厚く、中村貝塚(070007)のように地表下約6mの地点で発見された例もあり、表面観察だけでは確認できない遺跡も多数残っているとみられる。また、古墳時代の遺跡数の中で古墳の占める割合が非常に低い。古津賀遺跡(070021)や具同中山遺跡群(070052)のように5世紀後半から6世紀にかけての大規模な祭祀遺跡が確認されているにもかかわらず、その時期の古墳が皆無であり、今後、古墳の発見される余地がある。奈良・平安時代の遺跡にしても、その絶対数は少なく今後新たに発見される可能性がある。

宿毛市は、中村市の西隣りで愛媛県に隣接しており、面積、遺跡数とも中村市に次ぎ第2位である。遺跡が集中しているのは、山奈・平田地区であり、市全体の遺跡数の約41%を占めている。ただし、芳奈・戸内地区では、遺跡数の約66%が中世の城跡で占められており、その時代の他の遺跡は極めて少ない。また、山田地区及び平田地区には、古代において郡衙並びに郷が設置されたと考えられており、山田地区では、出土遺物と立地からその可能性のある遺跡(竹部遺跡)が今回発見されたが、平田地区ではその時代の遺跡は発見されておらず、今後発見される可能性もある。

全体的にみると、中世の城跡の占める割合が約56%と極めて高い数値を示している。このことから考えるなら、今後それら城跡に伴うであろう屋敷跡や集落跡も多数確認されるのではなかろうか。

土佐清水市は、高知県の南端部に位置し、遺跡数では、大方町とほぼ同数である。今回の調査では、縄文時代と中近世の遺跡が比較的多く発見されたが、古墳時代と奈良時代の遺跡は確認されなかった。奈良時代の遺跡については、平安時代の遺跡が発見されていることから、今

後発掘調査によって確認される可能性が強い。一方、古墳時代の遺跡については、現在中村市、宿毛市、大方町で発見されているだけであり、発見されていない他の町村の様相をも加味し、土佐清水市の古墳時代について考えなければいけないのではなかろうか。

佐賀町は、幡多地域の北東部に位置し、高岡郡窪川町と隣接している。幡多地域の中では、総面積、耕地面積が最も狭く、遺跡数も一番少ない。遺跡の時代は、縄文時代と中世以降に限られる。このことは、大正町、十和村、西土佐村の北幡地区等にも当てはまる。

北幡地区は、四万十川の中・上流域に位置し、遺跡の立地し得る部分が城跡以外、ほとんど河岸段丘上に限られ、比較的広い河岸段丘を多く有する西土佐村や十和村では、遺跡が割合多く発見されたが、広い河岸段丘が極めて少ない大正町では、遺跡数も限られる。また、これと同じことが三原村についてもいえる。

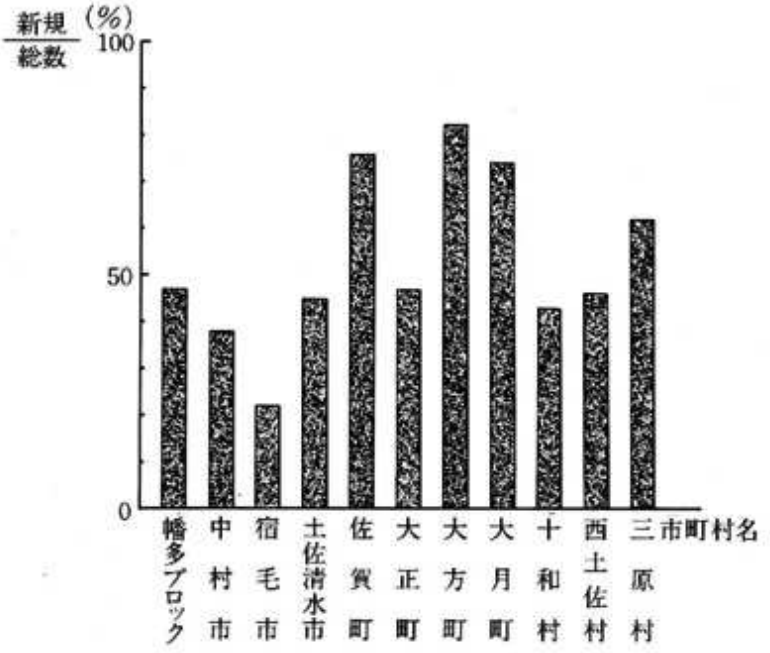
三原村は、中村市、宿毛市、土佐清水市、大月町に囲まれており、遺跡が比較的集中しているのは、柚ノ木地区である。この柚ノ木地区には、幡多郡下でも規模の大きな城跡の１つである柚ノ木城跡(530001)があり、周辺には同時代の遺跡がいくつか発見されている。

大月町は、高知県の南西端に位置し、大方町に次ぐ耕地面積を有するが、遺跡数では、その約半分である。これは、大月町で最も広い平地部分を有する弘見地区に生活し得るに足る水を得ることのできる河川がなく、集落を構成し得なかったことによるのではなかろうか。

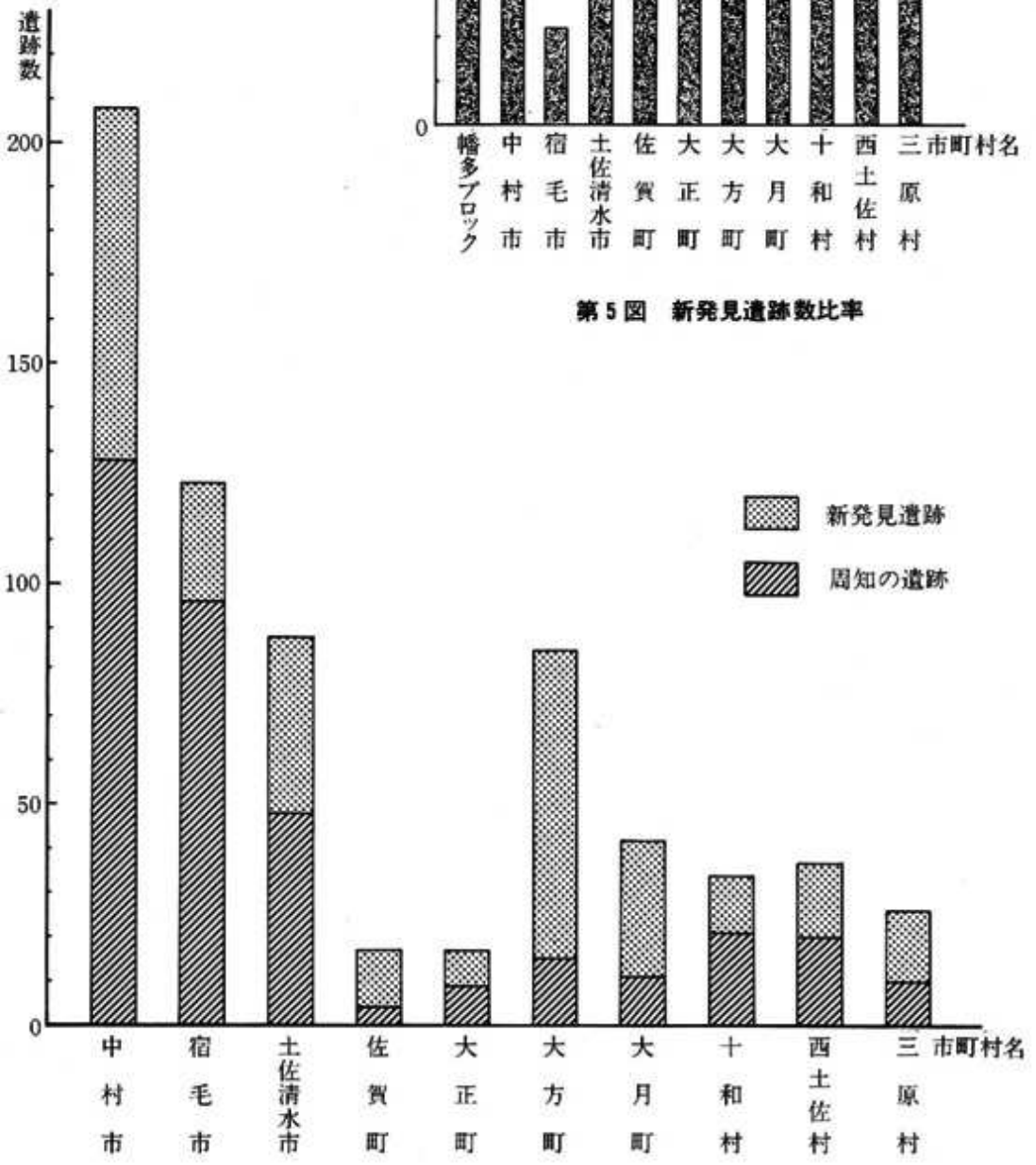
大方町は、総面積に比べ耕地面積が広く、７町村の中では最大の耕地面積を誇る。また、遺跡数でも他の町村より際立って多く、大月町の約２倍、佐賀町の約５倍となっている。時代別遺跡数では中村市に次ぎ２番目に位置し、各時代の遺跡が満遍なく発見され、縄文時代以降綿々とした人間の生活の痕跡を看取でき、代表的な遺跡の分布状況を呈している所であるといえる。このことは大方町が太平洋に面した比較的広い平野部と遺跡の立地に適する多くの舌状台地を有し、各谷々からは生活に必要な水を得ることのできる河川が流れでていることによるとみられる。また、町村の中では唯一古墳が発見されている所であり、さらに古代においては郷（大方郷）が設置されたことからも首肯できる。ただし、古墳の数が極めて少なく、今後発見される余地は十分あるが、宿毛市同様、すでに削平された可能性もあり、表面観察だけでは確認できないかもしれない。

以上、各市町村の様相について記したが、最後に、幡多地域全体の今後の課題についてまとめてみたい。

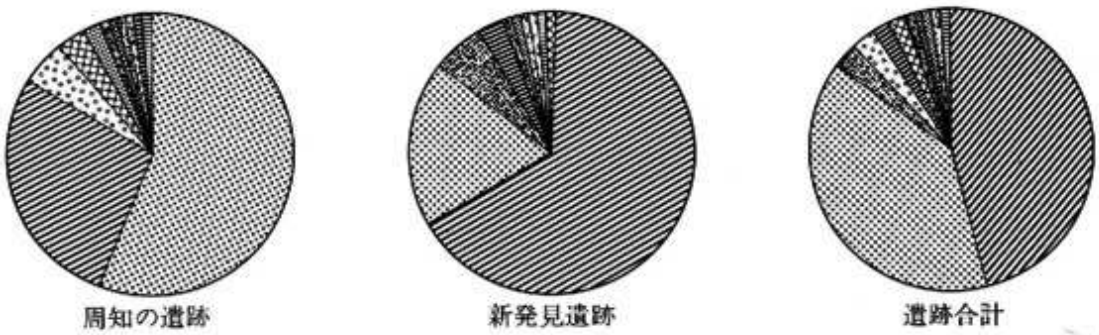
遺跡の最も集中する地域は、大方町から中村市、宿毛市にかけての部分であり、全体の約61％を占める。このことは、開発の進展ともかかわりがあり、奇しくも開発の計画区域とも一致する。今後、開発と埋蔵文化財との調整が必然的に多くなり、発掘調査の件数も増加することが十分予想され、早急な埋蔵文化財保護体制の確立を計らなければいけないと考えられる。また、周辺市町村においても、開発の波は少なからず押し寄せて来るとみられ、埋蔵文化財に対する今一層の理解が求められよう。



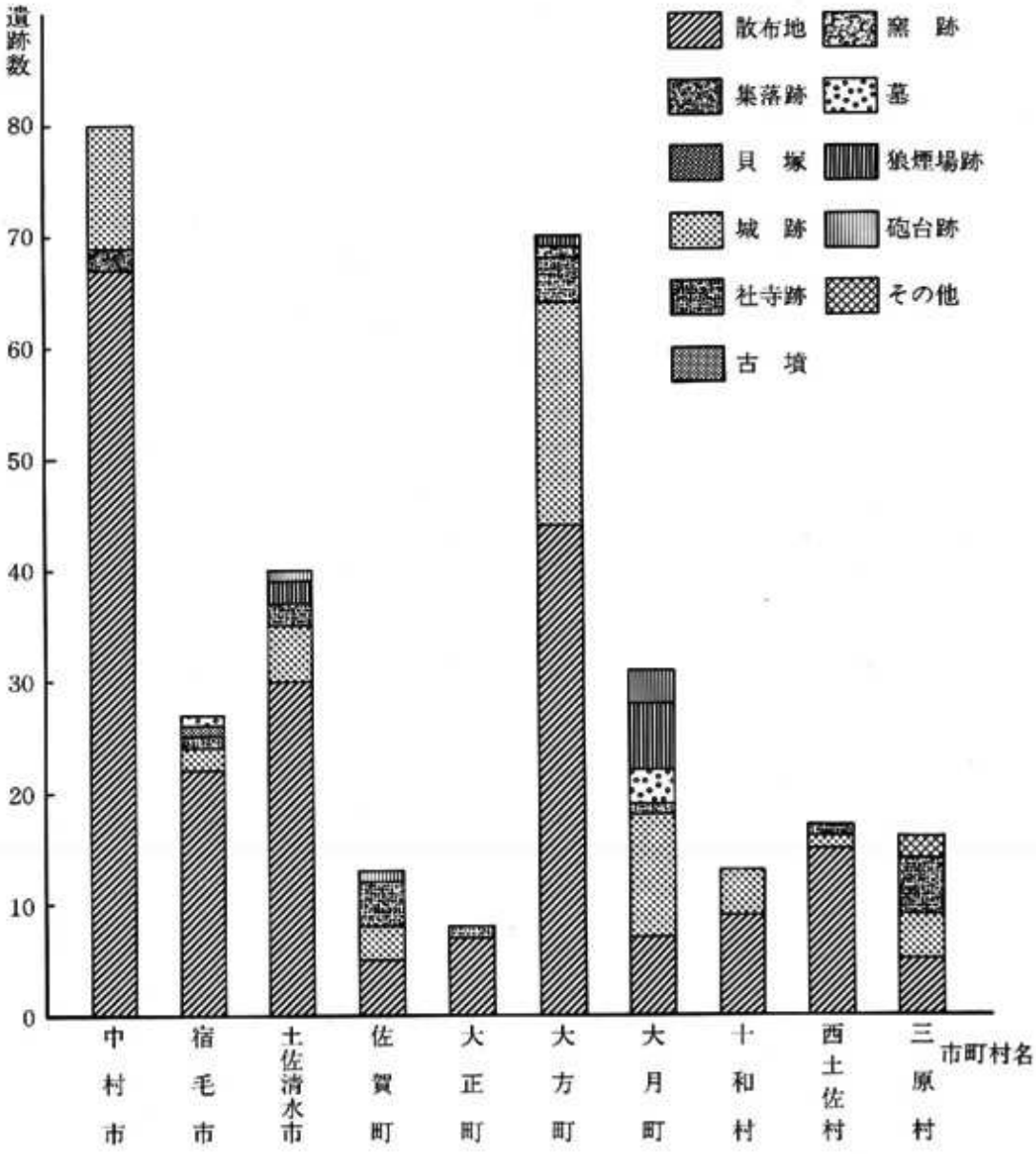
第5図　新発見遺跡数比率



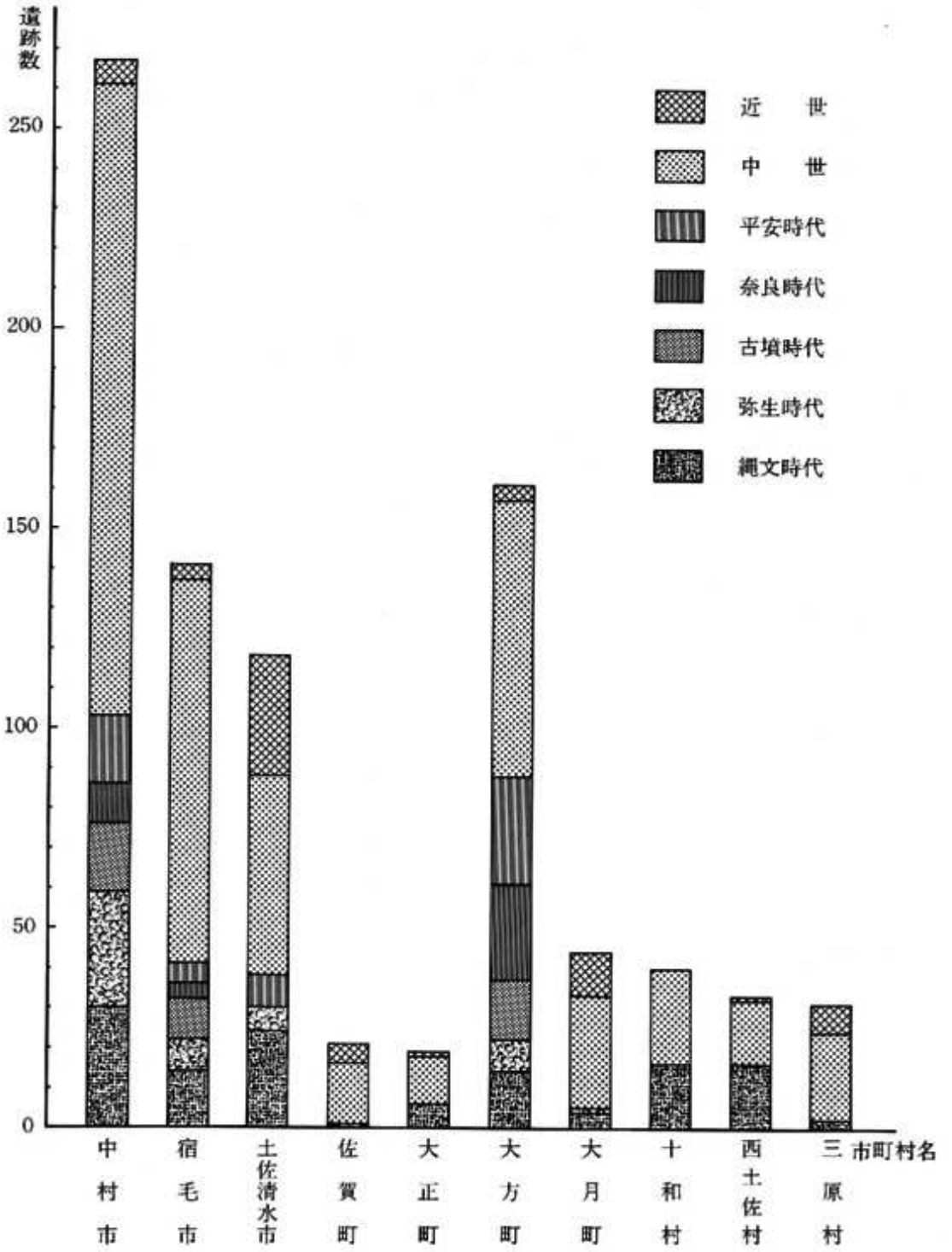
第6図　遺跡数変化図



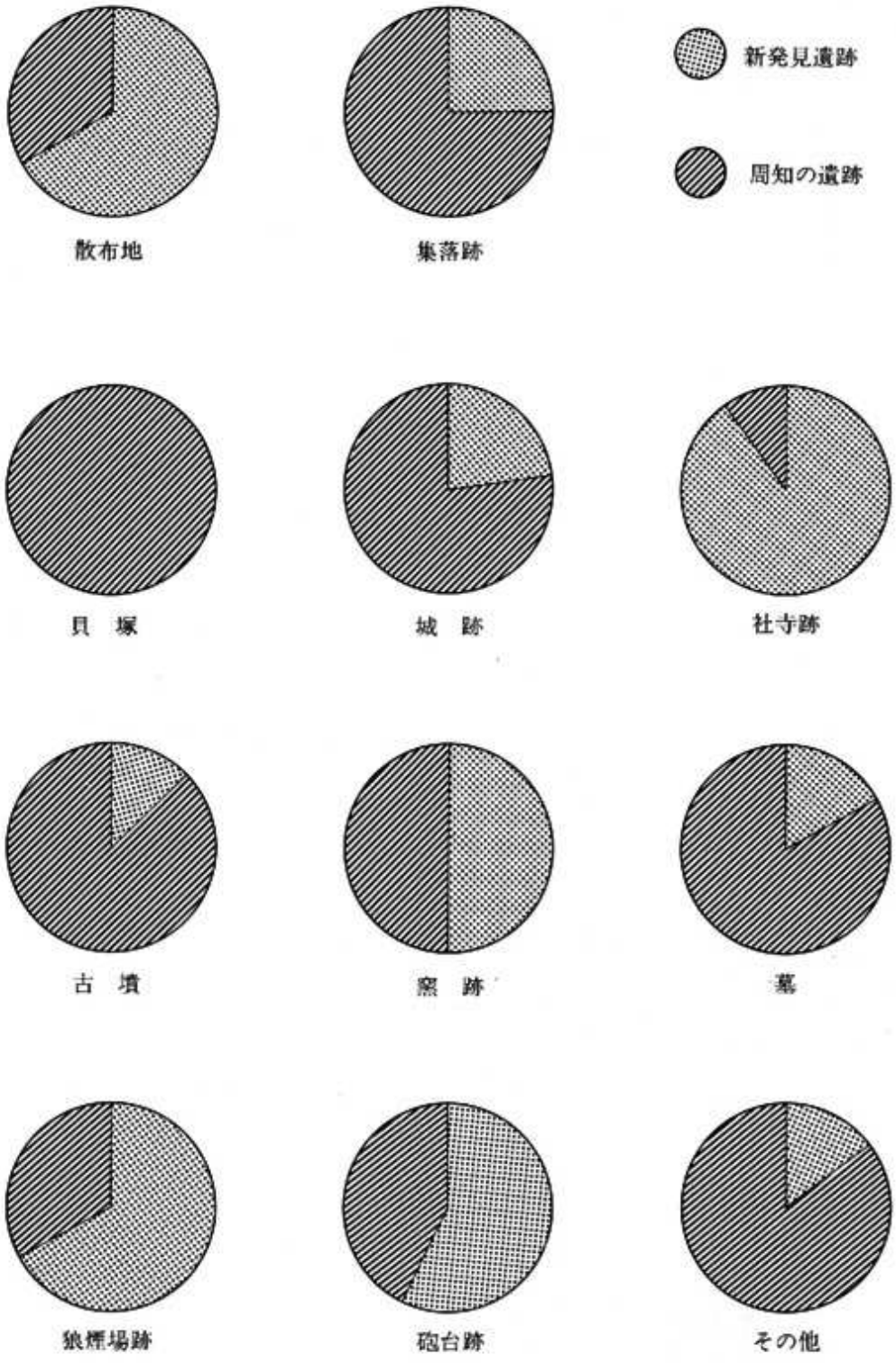
第7図　幡多ブロック遺跡種別内訳



第8図　市町村別新発見遺跡種別数



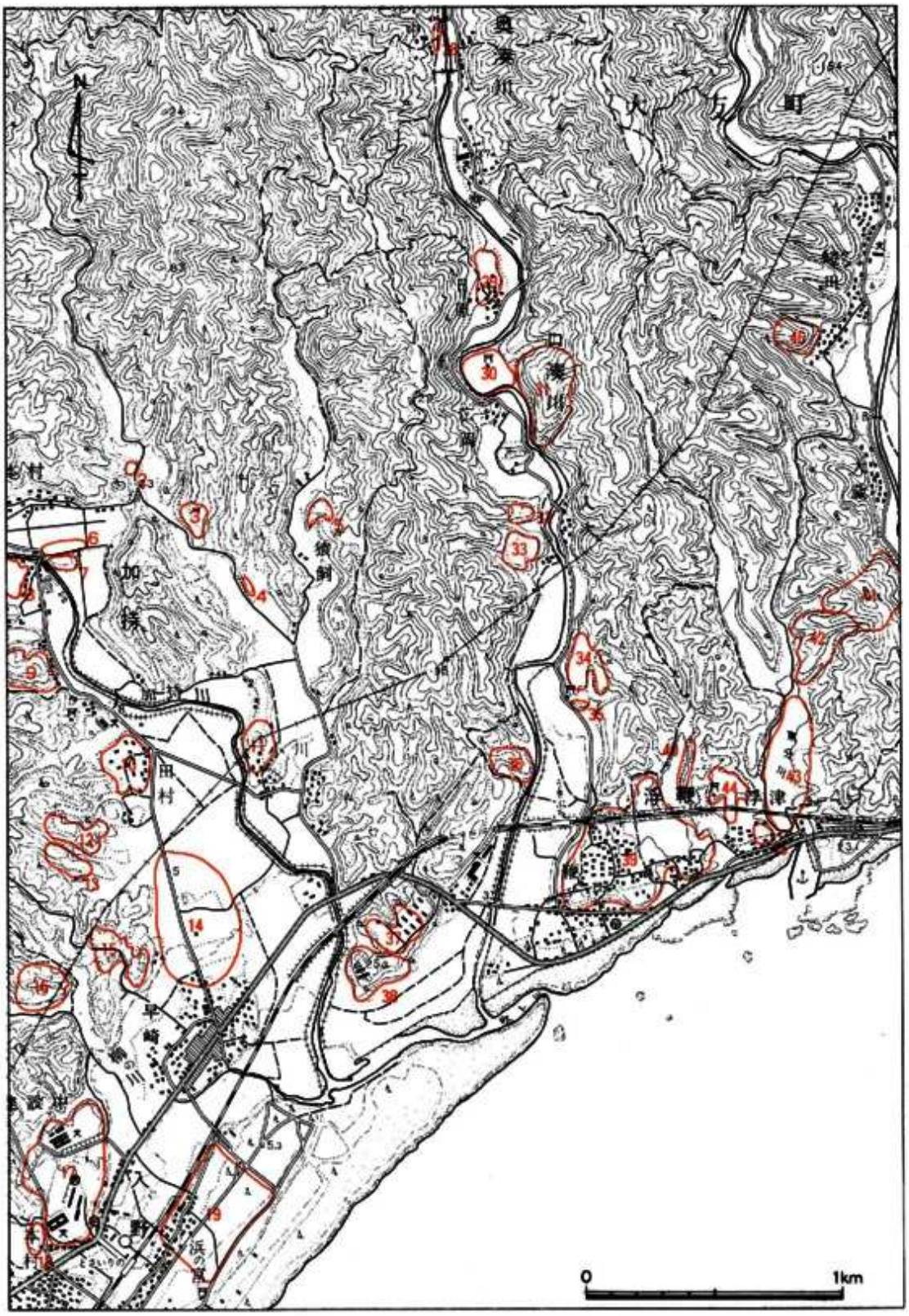
第9図　市町村・時代別遺跡数



第10図　遺跡の種類別新発見遺跡比率

地図No.	市町村No.	名称	所在地	種別	現況	時代	備考
		省略					
19－2	490049	花井川遺跡	大方町加持字上屋式	散布地	畑	中世	
3	490010	庄田遺跡	〃 〃 字庄田	〃	〃	弥生～古墳	
4	490050	正田畝遺跡	〃 〃 字正田畝	〃	畑・山林	平安・中世	
5	490051	猿飼遺跡	〃 〃 字サ子トウシ	〃	畑・果樹園	縄文	
6	490052	加持本村遺跡	〃 〃 字イセキ	〃	水田・畑	奈良～中世	
7	490053	泉福寺跡	〃 〃 字寺中	社寺跡	畑	〃	
8	490054	竹シマツ遺跡	〃 〃 字竹シマツ	散布地	畑・荒蕪地	〃	
9	490011	鹿持城跡	〃 〃 字古城	城跡	山林	中世	
10	490055	田村遺跡	〃 〃 字田村ヤシキ・王子谷口	散布地	畑・宅地	奈良～中世	
11	490012	小川城跡	〃 〃 字平見	城跡	山林	中世	
12	490056	宇町ノ前遺跡	〃 〃 字ウチウマエ	散布地	山林・畑	古墳・中世	
13	490057	岡崎遺跡	〃 入野字岡崎	〃	〃	〃	
14	490013	早咲遺跡	〃 〃 字早咲	〃	水田・畑	弥生～中世	祭祀遺跡
15	490058	亀ノ甲遺跡	〃 〃 字亀ノ甲	〃	畑	古墳～中世	
16	490059	高知馬場遺跡	〃 〃 字高知馬場・四拾石他	〃	〃	〃	
17	490014	入野遺跡	〃 〃 字大谷・タバタ他	〃	学校・畑	古墳	
18	490060	入野城跡	〃 〃 字城山	城跡	山林・畑	中世	
19	490061	浜ノ宮遺跡	〃 〃 字浜の宮・上万行・神上	散布地	畑・宅地	〃	
		省略					
28	490004	奥湊川遺跡	大方町奥湊川字中地屋敷	散布地	水田・畑	弥生・中世	
29	490034	口原遺跡	〃 口湊川字ヒビ原	〃	畑・宅地	奈良・平安	
30	490035	高知神遺跡	〃 〃 字高知神・新田	〃	水田・畑	縄文～中世	
31	490005	米津(口湊川)城跡	〃 〃 字城山	城跡	山林	中世	
32	490036	コウカ遺跡	〃 〃 字コウクワ	散布地	畑・荒蕪地	〃	
33	490037	寺尾遺跡	〃 〃 字岡寺尾	〃	畑	奈良～中世	
34	490038	防ノ駄馬遺跡	〃 浮鞭字防ノ駄馬・防ノ谷	〃	〃	縄文～中世	
35	490039	鞭窯跡	〃 〃 字ツエツチ	窯跡	畑・山林	奈良・平安	
36	490040	曽我城跡	〃 〃 字城ノ谷口	城跡	山林	中世	
37	490008	弘野遺跡	〃 〃 字弘野	散布地	畑・荒蕪地	縄文～平安	
38	490009	吹上城跡	〃 〃 字南旧城	城跡	山林・荒蕪地	中世	
39	490007	鞭遺跡	〃 〃 字東ダバ・奥ダバ・色見ダバ・他	散布地	畑・宅地	縄文～中世	
40	490006	鹿々場窯跡	〃 〃 字鹿々場	窯跡	水田・畑	奈良・平安	
41	490028	浮津城跡	〃 〃 字城山・上城山	城跡	山林	中世	
42	490029	南浮津城跡	〃 〃 字小城山	〃	〃	〃	
43	490030	浮津遺跡	〃 〃 字南千次ヤシキ・代僧・休場他	散布地	水田・畑	縄文～中世	
44	490031	奥尾遺跡	〃 〃 字前奥尾・西奥尾・旧中谷他	〃	畑	奈良～中世	
45	490032	浮鞭城跡	〃 〃 字田城	城跡	畑・荒蕪地	中世	
46	490027	鵜川城跡	〃 鵜川3599－1・5・11～13	〃	山林	〃	
		以下省略					

第7表　大方町早咲周辺遺跡一覧表



第11図　大方町早咲周辺遺跡地図

昭和61・62年度
高知県遺跡詳細分布調査概報
昭和63年3月

編　集　高知県教育委員会
発　行　高知市丸ノ内1丁目7番52号
　　電話（0888）21－4761
印　刷　弘文印刷株式会社
　　高知市与力町5－16